

報道関係者各位

東海北陸自動車道の全線開通から1年 東海北陸自動車道(飛騨清見インターチェンジ～白川郷インターチェンジ間) の交通状況と整備効果

東海北陸自動車道の飛騨清見ICから白川郷ICまでの間(延長24.9km)が2008年7月5日(土)15:00に開通し、その後の交通状況と開通の効果をとりとまとめましたので、お知らせします。

□利用状況

◆交通量の変化(開通前後の比較、季節変動、経年変化)

- 東海北陸自動車道 飛騨清見IC～白川郷IC間の開通後1年間の平均交通量は、約7千台/日(平日平均5千台/日、休日約10千台/日)でした。
- 開通区間の前後の区間では、いずれの季節においても、交通量が前年に比べて2倍程度増加しました。
- 東海北陸自動車道の全線開通により、岐阜県や愛知県、滋賀県以西、静岡県以東から能越自動車道 小矢部東本線料金所を利用する交通が増加し、北陸地域と中部地方や近畿地方の結びつきの強化が確認されました。
- 郡上八幡IC～ぎふ大和IC間の4車線化工事は2009年7月17日に完成予定で、一宮JCT～白鳥IC間が連続して4車線で交通運用されます。

□地域社会への影響

◆観光(圏域の観光入り込み変化、白川村観光入り込み経過、高速バス)

- 飛騨圏域、東濃圏域、砺波圏域で観光入り込み客数が最大18%増加しました。
- 白川村では、名神高速道との直結や東海北陸道の延伸及び全通に伴い、観光客が増加しています。(全通時は前年比3割増、過去最高値)
- 中部-北陸間運行の高速バスの利用は、4月以降も約45%増加、全通10ヶ月後の増便(+4便)もみられました。

◆生活の変化や地域活性化(道の駅、企業アンケート、財政力指数変化)

- 白川村から高山市への救急搬送実績が26件、開通前の2.7倍になりました。
- 白川村の中学校の部活動において高山市の大会に日帰り参加が可能となり、経費が約20万節減しました。
- 名神接続などのネットワークの形成後、沿線地域の財政力指数が向上しています。

◆企業活動の変化(満足度、期待度)

- 企業アンケートでは、開通区間を利用し満足と回答した企業は7割を超えています。

同時発表 (資料配布)	中部地方整備局記者クラブ、中部経済産業記者会、富山県政記者クラブ、石川県政記者クラブ、愛知県政記者クラブ、岐阜県政記者クラブ 高山市政記者クラブ
----------------	---

お問い合わせ先	中日本高速道路株式会社 広報室(マスコミ専用) TEL. 052-222-3628(直通) 国土交通省北陸地方整備局 道路部 地域道路課 課長 渡部長務 TEL. 025-370-6742(直通) 国土交通省中部地方整備局 道路部 地域道路課 課長 梅村博 TEL. 052-953-8170(直通)
---------	---

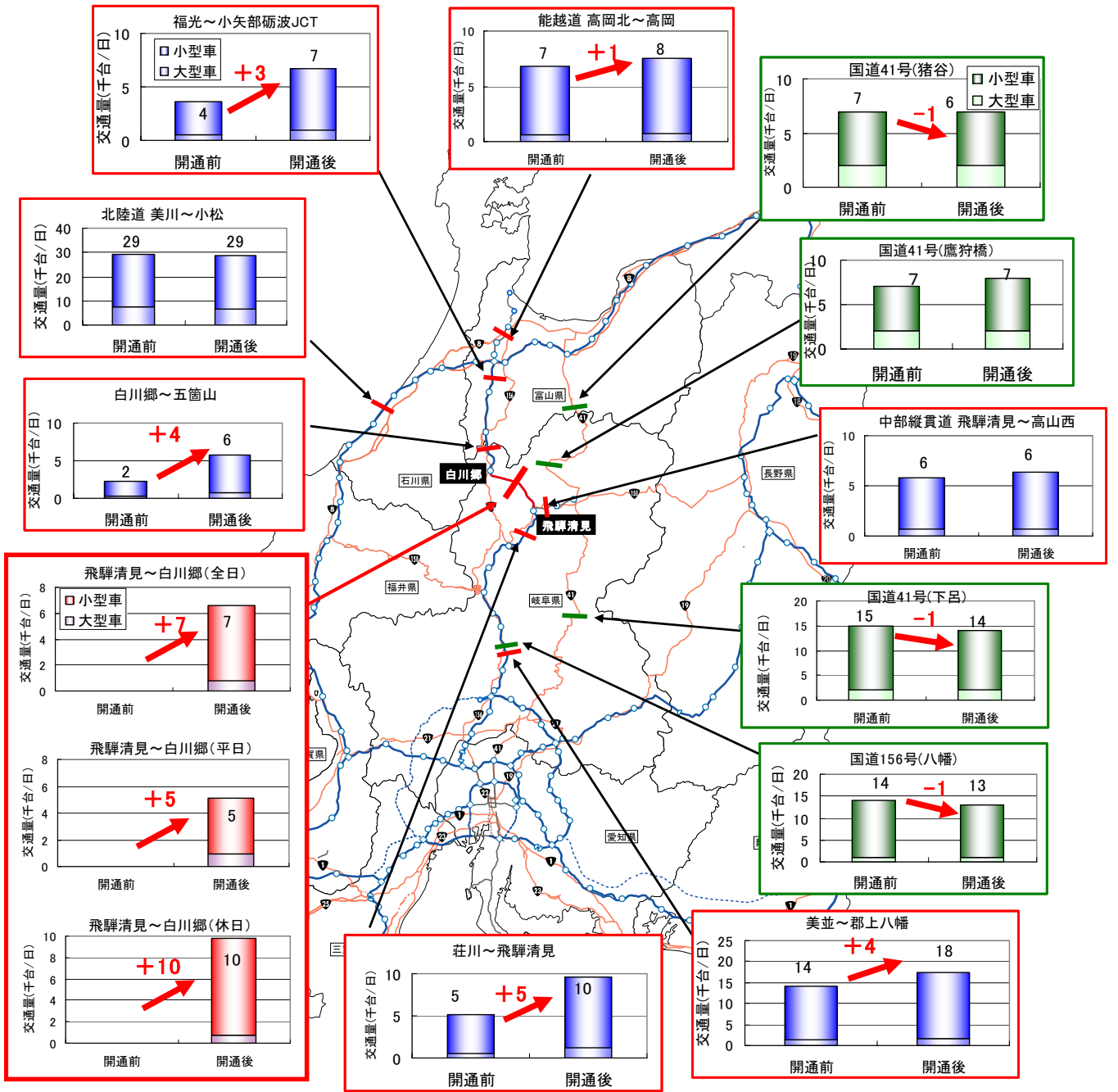
1. 交通量への影響

1-1. 東海北陸自動車道等の周辺の道路ネットワークの交通量

1) 開通後1年間の交通状況

- ・開通翌日の2008年7月6日(日)から2009年6月21日(日)の飛騨清見IC～白川郷IC間の平均断面交通量は約7千台/日[平日平均約5千台/日, 休日平均(土日・祝日)約10千台/日]でした。
- ・東海北陸自動車道と接続する能越自動車道でも、開通前と比較して約1千台/日の交通が増加しました。

新たなネットワークにより、変わる車の流れ



※交通量計測装置によるデータを速報値として記載。

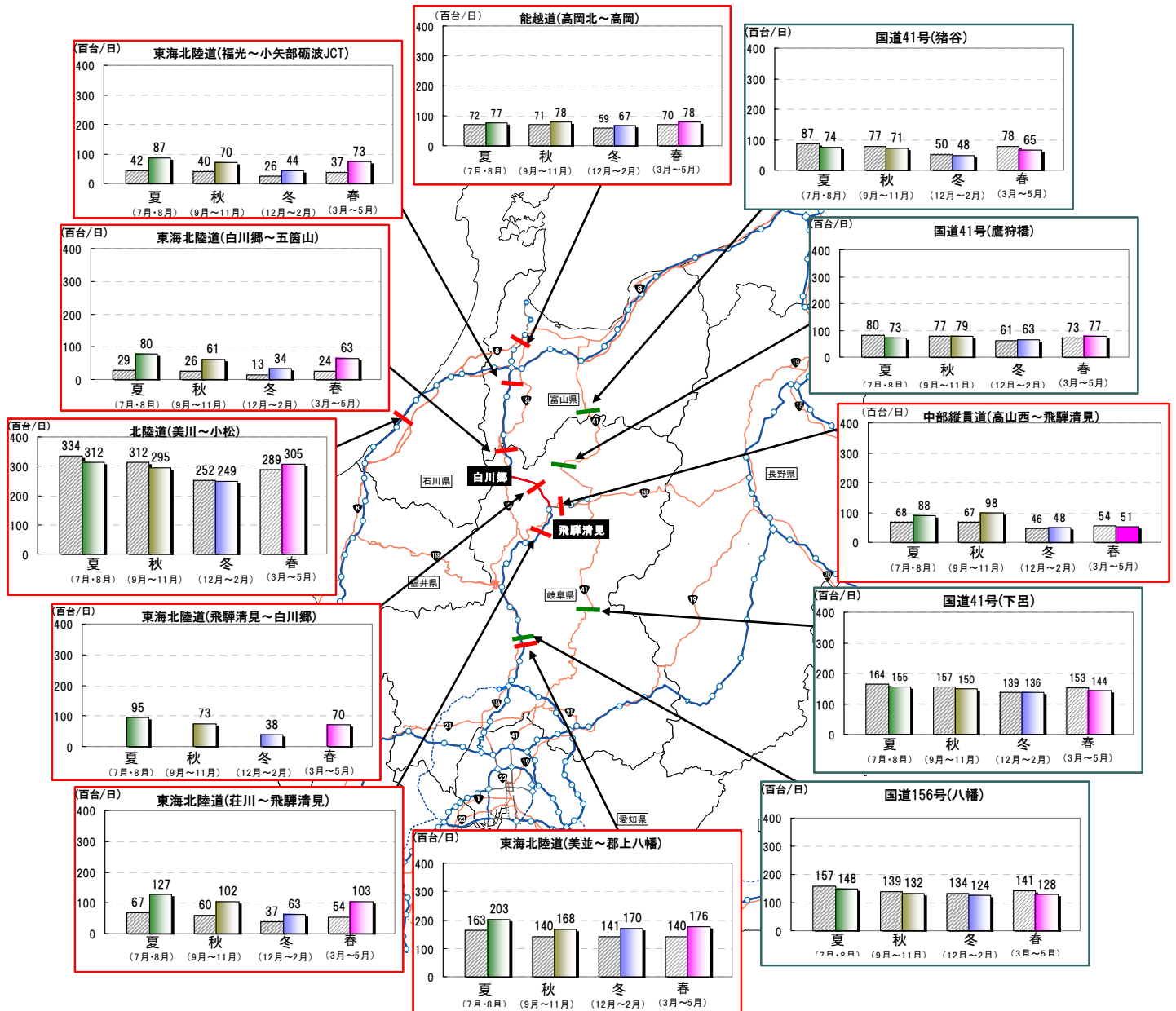
※飛騨清見IC～白川郷IC 開通前は、2007年7月8日(日)から2008年6月22日(日)までの日平均交通量を記載。

※飛騨清見IC～白川郷IC 開通後は、2008年7月6日(日)から2009年6月21日(日)までの日平均交通量を記載。

2) 交通の季節変動

- ・主たる観光シーズンである“夏”の交通量が最も多く、次いで“秋”の紅葉シーズン、“春”の行楽シーズン、“冬”のスキーシーズンと、東北北陸自動車道の交通量は季節変動が顕著にみられます。
(東北北陸自動車道 飛騨清見～白川郷間で、夏の交通量[95百台/日]は、冬[38百台/日]の約2.5倍)
- ・開通区間の前後の区間では、いずれの季節においても交通量が前年に比べて2倍程度増加しました。

交通の季節変動



※交通量計測装置によるデータを速報値として記載。

※飛騨清見IC～白川郷IC 開通前は、下記の時期の日平均交通量を記載。

夏:2007年7月,8月、秋:2007年9月～11月、冬:2007年12～2008年2月、春:2008年3月～5月

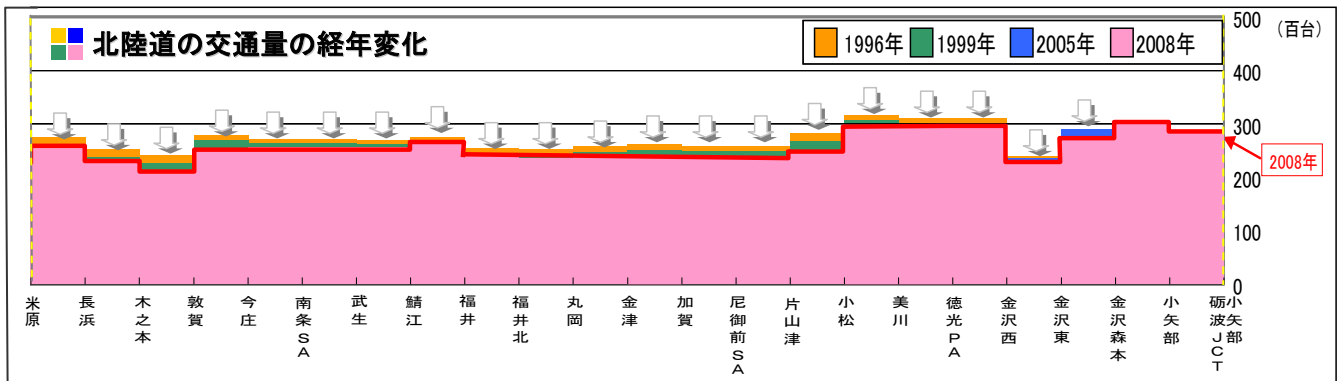
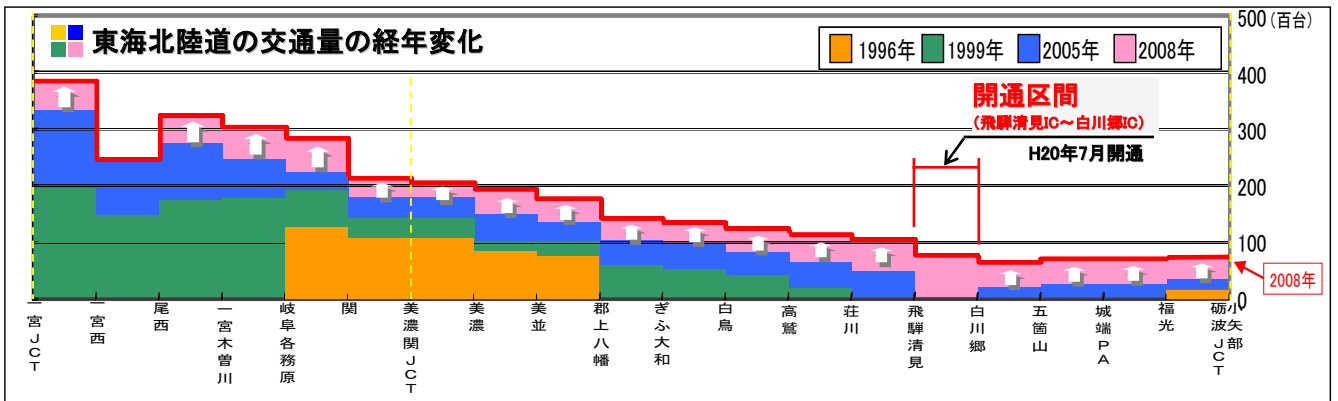
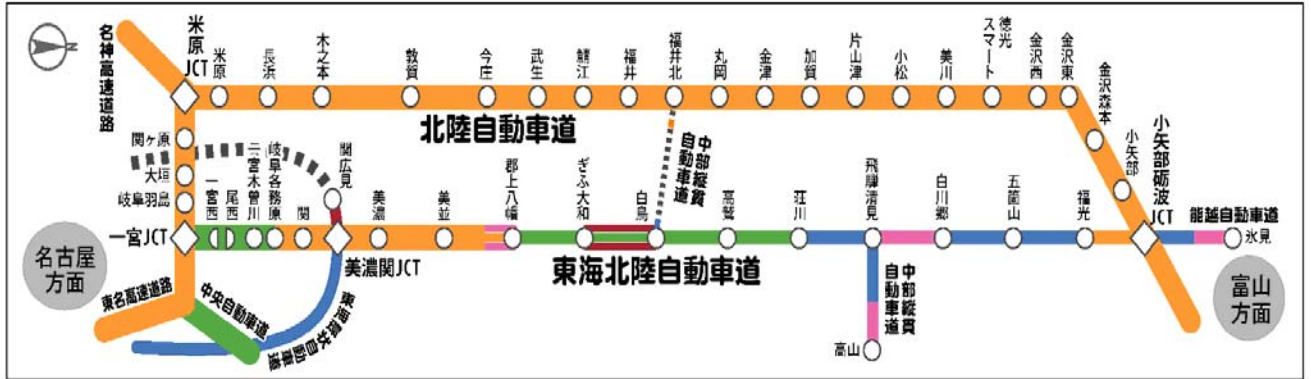
※飛騨清見IC～白川郷IC 開通後は、下記の時期の日平均交通量を記載。

夏:2008年7月,8月、秋:2008年9月～11月、冬:2008年12～2009年2月、春:2009年3月～5月

3) 東海北陸自動車道の段階的開通に伴う交通量の変化

- ・東海北陸自動車道は、開通区間の延長とともに交通量が増加しています。
- ・特に、名神高速道路との直結(1999年)後や東海環状自動車道との接続(2005年)後に増加し、2008年7月の全線開通により、さらに増加しました。

東海北陸道全通による交通量の増加と北陸道の変化

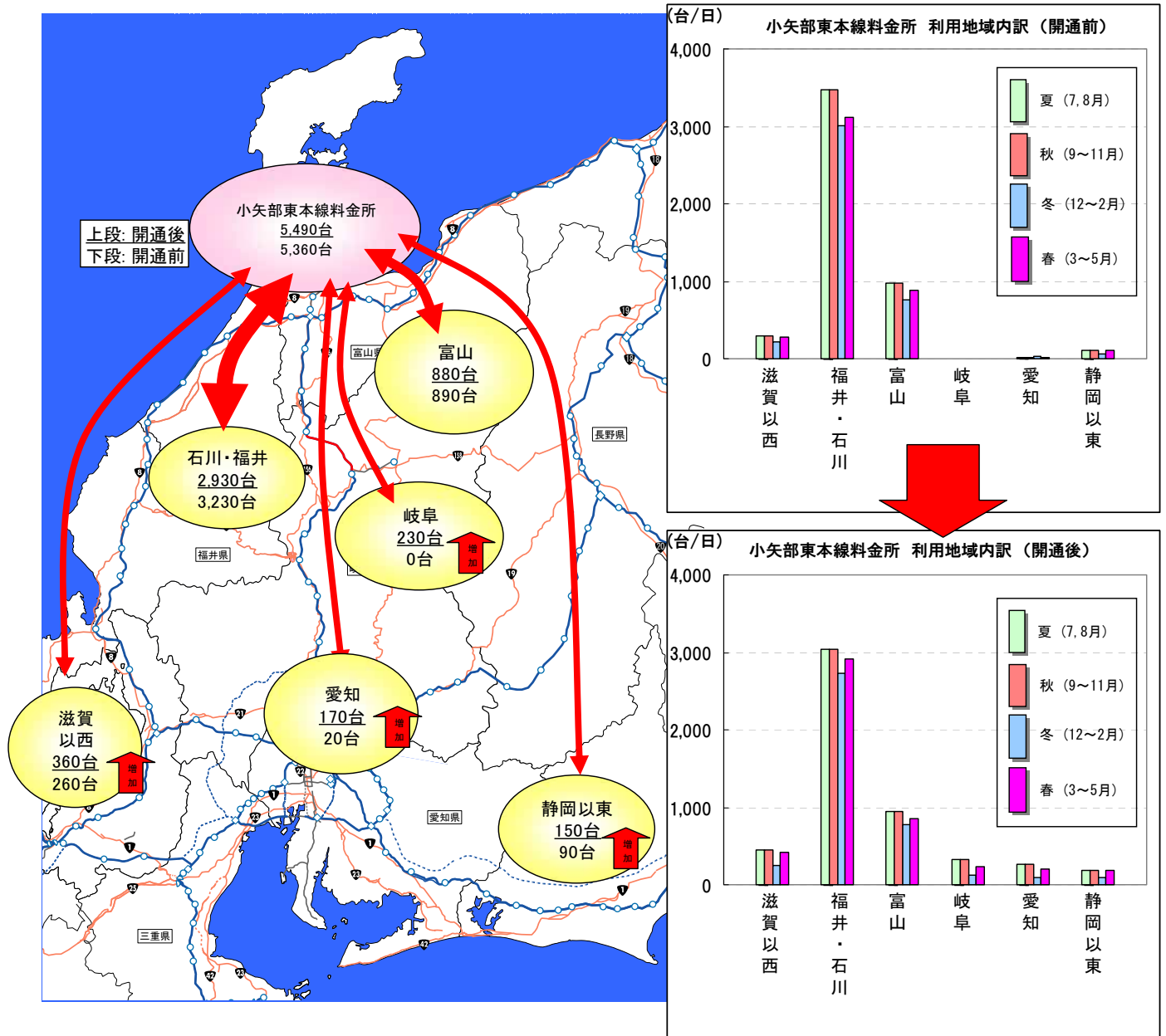


出典: NEXCO提供データにより作成 1996年、1999年、2005年は、年平均日交通量 2008年は、2008.7.6～2008.12.31の平均日交通量

4) 利用車圏域の拡大

- ・東海北陸自動車道の全線開通により、岐阜県や愛知県、滋賀県以西、静岡県以東から小矢部東本線料金所を利用する交通が増加し、北陸地域と中部地方や近畿地方の結びつきの強化が確認されました。

小矢部東本線料金所の利用車両は中部地方や近畿地方から増加傾向



※交通量計測装置によるデータを速報値として記載。
 ※飛騨清見IC～白川郷IC 開通前は、下記の時期の日平均交通量を記載。
 夏:2007年7月,8月、秋:2007年9月～11月、冬:2007年12～2008年2月、春:2008年3月～5月
 ※飛騨清見IC～白川郷IC 開通後は、下記の時期の日平均交通量を記載。
 夏:2008年7月,8月、秋:2008年9月～11月、冬:2008年12～2009年2月、春:2009年3月～5月

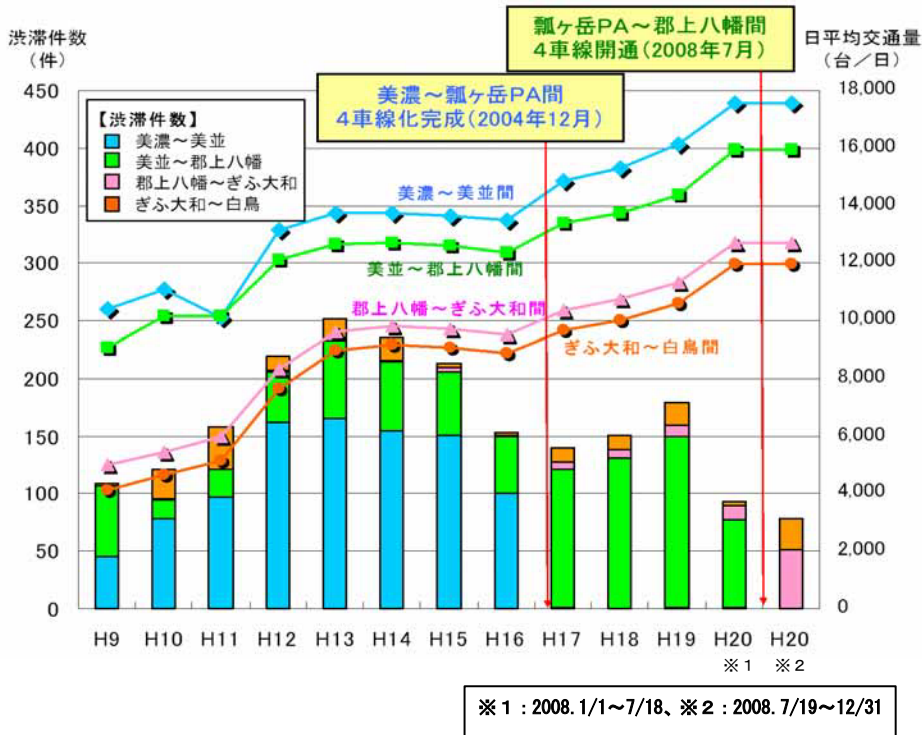
5) 4車線化事業の推進

- 東海北陸自動車道の全線開通や2009年3月29日からはじまった休日特別割引により交通量が大幅に増加し、白鳥以北の2車線区間では休日の渋滞が大幅に増えています。
- 郡上八幡IC～ぎふ大和IC間の4車線化工事は2009年7月17日に完成予定であり、一宮JCT～白鳥IC間が連続して4車線で交通運用され、渋滞による時間損失や渋滞末尾での追突事故が軽減されます。
- また、去る2009年4月27日の第4回国土開発幹線自動車道建設会議を経て、白鳥IC～飛驒清見IC間の4車線化が決定されました。より安全安心で快適な走行環境づくりを進めてまいります。

これまでに4車線化が完成した区間では、交通集中による渋滞が解消しています

美濃IC～白鳥IC間の年平均交通量と渋滞件数の推移 2008年7月18日に4車線化が完成した瓢ヶ岳PA～郡上八幡間では、交通集中による渋滞が解消しました。

美濃IC～白鳥IC間の年平均交通量と渋滞件数の推移



山田トンネル付近(美並～郡上八幡間)



4車線化前の状況



4車線化後の状況

